

## 評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871400226
法人名	医療法人青峰会
事業所名	アクティブライフ宇和
所在地	西予市宇和町卯之町5丁目233番地
自己評価作成日	平成28年1月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者1人1人に合わせた支援が出来、その人の出来る力を最大限活かしていく第二の我が家を目指す</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>居間には、利用者と職員で作った干支の貼り絵を飾っていた。廊下には行事時の写真を掲示していた。ソファの方向をいろいろに変えて配置しており、日中はそれぞれがお気に入りのソファに座って過ごしている。居間に小さい敷き布団を敷いており、横になりたい方が使用している。昼食後に、食堂をほうきで掃いてくれる利用者があり、管理者は「ありがとうございます」とお礼を言っていた。</p> <p>食事の献立は、利用者の好みを聞きながら1ヶ月分作成している。重度の利用者が多いユニットでは、朝食と職員が2名体制の時はおかずを外注している。ミキサー食は、ひと品ごとミキサーにかけて盛り付けており、内容を伝えてから口にできるように支援していた。季節に応じた献立を考えており、2月は恵方巻きとイワシ、3月にはお節句にちらし寿司を作ることになっている。畑で利用者と一緒に野菜を作っており、メニューに採り入れている。調査訪問日の昼食後は、自主的に下膳する方や、「洗おうか」と食器洗いを申し出て職員と一緒に洗い物をする方の様子が見られた。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. <b>家族の2/3くらい</b> 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. <b>数日に1回程度ある</b> 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. <b>たまに</b> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. <b>少しずつ増えている</b> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. <b>職員の2/3くらい</b> 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. <b>ほぼ全ての家族等</b> 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ宇和

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 笹田 智子

評価完了日 H28 年 1 月 8 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で話し合い、実践している。又、常に見える所に掲 示しいつでも見えるようにしている	
			(外部評価) 開設後、理念を2回見直しており、現在は、「地域に開けた施 設作りをし、その人らしい人生を共に考え、笑顔のある生活 を送れるようお手伝いをする」という理念を掲げている。理念 は事務所に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 食材の買出しに近所のスーパーに利用者と買い物にいつたり している。又、納涼祭開催時には回覧板を利用し、地域 の方にも多数参加頂いた。散歩している時等に地域の方から 挨拶をして頂いている 保育園との交流会、福祉体験学習の受け入れも継続してい る	
			(外部評価) 納涼祭は、事業所のことを知ってもらうことも目的の一つとし て行っており、回覧板で案内を回してもらったり、近所の商 店や保育園にポスターを掲示させてもらった。利用者や地域 の方に楽しんでもらっており、今後も続けていきたいと考えて いる。近くの神社に初詣に出かけた際には、近所の方が利 用者の車いすを押してくれて、その間事業所のことを知って もらう機会にもなった。集会所で介護教室を行っているが、 地域の方の参加はほとんどないようだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 福祉体験学習で地元の中学生を受け入れを続けている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)                      ホームからの報告を主にしている。(行事や事故等)又、勉強会を開催もした。又、避難訓練や救急隊員の方に講師をお願いし、心肺蘇生等の指導をしていただいた。</p> <p>(外部評価)                      会議は、納涼祭・家族会・保育園児との交流会等の行事と併せて開催することもある。民生委員、区長、保育園長にも参加を依頼しているが、参加は少ない。さらに、会議の目的や意義等を参加者とも確認して、すすめ方や内容に工夫を重ねてほしい。</p>	
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      運営推進会議に担当の方に入って頂いている。又、事故があった時に施設長が報告を行っている。                      ターミナルケアの勉強会を開催した                      避難訓練、家族会、納涼祭等行事に運営推進会議を開催し取組みを伝えている                      介護相談員に訪問していただいている</p> <p>(外部評価)                      運営推進会議では、介護保険情報や制度の説明、防災メール登録の案内や感染症予防接種案内がある。利用者が介護相談員と顔なじみになれるよう、毎回同じ介護相談員の訪問を希望したが、決まり事もあって採り入れてもらうことは難しかったようだ。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      センサーマット、鈴、センサーチャイムをやむを得ず使用しているが、身体拘束について職員で話し合いをしている。</p> <p>(外部評価)                      職員会議時に、身体拘束しないケアについて話し合っている。帰りたい気持ちが強い利用者については、ご本人の思いで過ごしてもらえるように職員で話し合っ、利用者の所在確認を徹底することや、一緒に歩いたり買い物等して気分転換できるような支援を申し合わせた。立ち上がり不安定な利用者には、ご家族と相談して、スリッパの片方に鈴を付けて対応している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学ぶ機会は少ないが施設長を中心に虐待にならないように日々注意している。又、声掛け一つでも虐待になる可能性がある事を注意しながら日常のケアに従事している	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在ホームにて制度を利用している方がいないが言葉は知っていても意味まで詳しく理解している職員は少ない	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設長、介護支援専門員が御家族に親切に納得されるまで対応し入居後もフォローしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や電話対応時に職員が近況を報告してる。意見箱を設置している。又介護相談員を受け入れ意見を聞いてもらっている。 苦情相談窓口を玄関に掲示している 家族のみの話し合いの機会を設けた事がある (外部評価) 利用者個々の担当職員が毎月、利用者の様子をまとめており、写真を添えてご家族に送付している。行事案内や職員の異動については、運営推進会議議事録を送付することで報告している。遠方に住むご家族には、利用者の普段の様子をビデオレターにして送付し喜ばれている。法人では毎年、満足度調査を行っており、又、介護計画書には、家族の意見欄を設けているが、意見や要望はあまり出ないようだ。	家族会や運営推進会議等を活用して希望を聞き、又、ご家族来訪時にも意見や要望を引き出せるように工夫してみたい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>月1回のスタッフ会がありそこで施設長から意見があり、職員に反映されている。又、施設長が個別に話し合いの機会を設けておりそこで提案が出来ている。 法人課長が月に1.2回来所しホームでの決定が難しい場合等に相談している</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員からの提案で、利用者と一緒に菓子作りをする機会を作った。毎月、職員会時に勉強会を行っており、新人職員は、先輩職員に介助方法等を相談しながら支援に取り組んでいる。又、外部研修を受講した際の資料はファイルしており、いつでもみることができる。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>給与水準は低い。法人が正社員の登用を多くした</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>年二回能力開発カードによる職員による自己評価と、施設長による面接、評価を実地している。又法人内の研修と法人外の研修にも参加しやすい環境にある。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>法人内のグループホームには交流があり継続できている。しかし他の施設とは福祉ボランティア等での交流で継続が難しい。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>ゆっくり話を聞く環境を作り、声かけ、傾聴をしている。又入居前の見学や施設長、介護支援専門員が入居前訪問に行きその情報を職員に伝えている。 入居前プランにも訪問の情報を元に作成している</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前訪問で得た情報を元に職員で話し合いをし、入居時に家族と話す事によって不安な事要望を聞くようにしている。又、面会時には必ず近況報告を行っている。介護計画書にも家族が意見、要望を書けるように作成している。 入居前に見学に来ていただく事もある	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前訪問の情報、生活歴、家族、本人の話し、医師の意見書によって見極めをし、必要であれば入院していた看護師に情報を求める事もある 入居後のプラン作成時に事前訪問時の情報、入居後に新たに得た情報を元に作成している	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 洗濯物干しや食事作り等の手伝いを一緒にすることで、共に生活している者同士の関係を作っている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院受診、外出、外泊等協力してもらっている。些細な事でも電話によって報告している。月一回の写真送付状にても近況報告をしている 外出レク等にも案内を出し都合がつく家族は参加されている 面会時にケアプランを元に今後の希望等を聞いている	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人のかかりつけの病院、美容室等に行けるようにしている。近所の方の面会や散歩やドライブ時に馴染みの場所に行けるようにしている 面会も来られている方がいる。 (外部評価) 近くに住む親戚の方宅への行き来を自由にできるよう、職員は親戚の方と連絡をとり合って見守り支援している。入居間もない頃は、近所の方や知人の訪問があっても、じょじょに足遠くなっていくような傾向があるようだ。利用者が馴染みある人とかかわりを続けられるような支援に工夫できることはないか、話し合ってみてほしい。発語が少ない利用者のご家族の来訪時には職員が仲に入り、ご家族との会話のサポートを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い関係、対立の関係を見極めて食卓の席を決め支援している。時には職員が入り孤立しないように支援している 利用者同士で共同で行える作業を提供している	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院になっても部屋の取り置きをしている。また法人内の病院に入院して退去になった方は、連携看護師から情報が入る又、法人外の転院でも、情報を申し送りしている	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1人1人に担当が付き思いや要望を聞きケアプランに反映させている話す事が難しい方でも家族に思いや要望を聞きケアプランに反映している 私の思いシートを活用している (外部評価)	
			入居前に、ご家族、医療、介護支援専門員から情報を集めており、入居後1ヶ月、その後は、3ヶ月ごとにアセスメントを実施している。日々の利用者の言葉を記録して、職員会時には個々の思いや意向について話し合っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前訪問の情報、家族からの情報、生活の中から本人にも聞いている	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタル測定や必要な方には水分量及び排尿量や心身状態を個人記録に記入しスタッフ会にて話し合いをしている 急変等があった場合は申し送り時に話し合いをしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 三ヶ月ごとにカンファレンスを行い、作成している。日常の状態で、医師の指示、看護師の指示、家族の要望などを踏まえて話し合いを行っている。出来ていた事が出来難くなって来ている時には記録しプランに反映出来るようにしている (外部評価) 介護計画には、日常生活の中の言葉を記入して、利用者の思いを踏まえた計画作成に努力している。計画書書式には、家族の意見欄を設けているが、現在は、感謝の言葉を書く方が多い。3ヶ月ごと及び状態変化時に計画の見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録にケアプラン、私の思いシートを挿みまた、個人記録に目標・援助内容を記入し、日々確認できるようにし、記録にもケアプランが反映出来るようにしている	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) それぞれの担当医と連携をとっている。医療連携看護師が週に一度訪問がありアドバイスを受けている。訪問理容、介護タクシーも利用している	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの訪問、消防署に協力してもらっての避難訓練及び指導、近所のスーパーと一緒に買い物に行っている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に担当医の希望を聞き対応している ホームのかかりつけ医以外にも希望があれば対応している</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時、ほとんどの利用者ご家族は、協力医で診てもらうことを希望される。協力医は、ほぼ毎日往診に来て、1日に1～4名ずつ診ており、職員は、必要時に相談等している。又、契約看護師・協力医の看護師それぞれに、週1回訪問がある。他のかかりつけ医に介護タクシーを利用して受診する方もあり、その際には、書面で情報提供をしている。訪問調査時、服薬支援は職員2名で確認していた。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日状態を連携看護師及び主治医の病院所属の看護師に報告し、緊急時の電話対応、定期的週一回の訪問時に相談し指示を仰いでいる。その後の状態も報告している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員が面会し医師、看護師、ソーシャルワーカー、家族に情報を聞き早期退院が出来るように努めている。また、退院時には管理者、介護支援専門員、職員が病院側と家族と話し合い退院後の注意点等の情報を聞いている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>重度化してきた場合、主治医か、かかりつけの医師、連携看護師、家族などに施設長、介護支援専門員が相談し方向性を決めている。方向性が決まるとスタッフ会等で話し合いチーム支援が出来るように努めている</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時に看取り支援について説明して希望を聞くが、ほとんどのご家族が「今は考えられない」「こんなことも考えとかないかんのやな」と言われるようだ。状態変化時には、ご本人、ご家族、医師で、今後の暮らし方について話し合っている。運営推進会議時に、終末期のあり方について話し合ったことがあり、ご家族は、看取りについて考えるきっかけになったようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルがある。経験が浅い職員には、研修参加を呼びかけている救命救急講習も受講している。しかし、いきなりその場に出くわすと慌てる職員が多い。又、避難訓練を定期的に行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策マニュアルを作成し、いつでも見られるようにしている。スタッフ会で誘導・通報・応急手当等の分担について話し合いをしている。半年に一回避難訓練を常に夜間想定で実地してる。又、警察、消防に協力してもらい、地震時の訓練も実施した。運営推進会議を避難訓練にあて協力していただいた 地区の防災訓練にも参加した	
			(外部評価) 年2回火災避難訓練を行っており、消防署から重度の方は、なるべく1階ユニットを利用してもらえるよう指導があった。2階ユニットの利用者は、普段から階段を使って昇降できるよう支援している。地震訓練時には、テーブルの下に隠れる訓練を行った。転倒の心配や、かがみ方等、注意点がわかったようだ。職員の役割分担を決めており、全員が持ち出し袋や避難経路を把握している。地区の避難訓練には職員が参加している。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に人生の先輩だということを思い接している。しかし時に強い口調等の間違いの声かけがあった時には職員同士で注意している。	
			(外部評価) 法人内で行う接遇委員会に担当職員が参加し、事業所に持ち帰り報告を行っている。職員は、言葉遣い等、気になったことはその場で注意し合っている。排泄についてのやり取りは小声で行い、個人情報が他利用者に聞こえないよう職員の会話の大きさにも注意している。又、個々にとって、つらいことや恥ずかしいこと、踏み込んでほしくないこと等を知り、気を付けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が自己決定できるような声かけを基本として対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴、食事、体操、掃除の時間はある程度決まっているが、 その時にするかしないかは、利用者の自由になっている。突然 の外出にも対応している夜間等でどうしても、無理な場合には日 を改めて対応している	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 入浴後の着替えや朝の着替え等、本人が着たいものをきて いる。外出レクには化粧もしている。 入浴後に化粧水を使ったりしている	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備、野菜を切る、味見、食器洗い等その人が出来ることを 職員と一緒にしている。ミキサー食でも盛り付けに注意し美 味しく見えるように支援している。利用者の体型に合わせた 食器も使用している。	
			(外部評価) 献立は、利用者の好みを聞きながら1ヶ月分作成している。重度の利用 者が多いユニットでは、朝食と職員が2名体制の時はおかずを外注して いる。ミキサー食は、ひと品ごとミキサーにかけて盛り付けており、内容 を伝えてから口にできるよう支援していた。季節に応じた献立を考えて おり、2月は恵方巻きとイワシ、3月にはお節句にちらし寿司を作ること になっている。畑で利用者と一緒に野菜を作っており、メニューに採り 入れている。調査訪問日の昼食後は、自主的に下膳する方や、「洗おう か」と食器洗いを申し出て職員と一緒に洗い物をする方が様子が見ら れた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の食事量を記録に記入し、少ない方がいた時には毎日 の報告で連携看護師に報告している。ポカリスエットも常備 している。その人に合わせた支援をしている。 栄養状態が悪い方には、主治医の指示でエンショア(栄養補 助の目的)を使用している	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後に口腔ケアを実地している。義歯がなく歯も ない方でも、スポンジカによる口腔ケアを施行している周一 回のポリデント洗浄を行っている義歯、歯がなくても、舌磨き 用ブラシを使用している。 歯科衛生士のアドバイスを継続している	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は全ての利用者がトイレにて排泄が出来るよう支援している (外部評価) チェック表で排泄パターンを確認し、誘導してトイレで排泄できるように支援している。おむつを使用している方も、まずはトイレに座ることを目標に支援しており、便器の背部分に、クッション性のある背当てを手作りする等、環境づくりにも工夫していた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝、ヨーグルトを飲んでいる。食べ物も消化しやすい形態にしている。出にくい方には下剤で対応している	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夜間入浴の希望には現在対応出来ていない。また、時間帯も希望に添えていない。しかし、タイミングを工夫し入浴を楽しめる工夫をしている。 (外部評価) 3日に1回入浴を支援しており、時間帯や順番、湯温や温まる時間等、利用者の希望を聞きながら支援している。重度の利用者には職員2人で介助しており、利用者が不安を感じないように、浴槽内では利用者の体勢に注意をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室内の換気、温度調節にきをつけている。起床時間はある程度目安があるが、就寝時間はある程度自由である。日中の休憩は自由に休んでもらっている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情報をいつでも見れる所にファイルしている。定期以外の服薬は服薬後の状態を記録し変わった事があれば連携看護師に報告している 内服ミスがないように内服チェック表、内服時のダブルチェック、準備時のトリプルチェックを徹底している	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人にあった洗濯干し、洗濯たたみ等役割が日常生活の中に出来ている。月1回のレクや不定期の散歩、ドライブと気分転換を図っているが充分ではない	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望によつての外出は充分ではないが、出来るだけかなえる用に支援している。近所のスーパーに買い物に行ったり、花を見に行ったりしている	
			(外部評価) 「自宅に帰りたい」「お墓参りがしたい」という利用者には、ご家族と相談して協力を得ながら出かけられるよう支援している。外出計画は、利用者が選んで出かけられるよう支援している。職員が食材の買い出しに行く際に、希望する利用者は一緒に出かけて買い物している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員が管理している為、利用者が支払う場面がない	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話、手紙が出来るように支援している。ビデオレターをした事もある。年賀状は書けるひとにはかいてもらっている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節ごとに飾りつけを一緒にしたり、窓を開け外の空気を入れたりその日々に合わせて居心地良い環境を作っている。レクリエーション時の写真を廊下に掲示し面会時にみてもらっている</p> <p>(外部評価) 居間には、利用者と職員で作った干支の貼り絵を飾っていた。廊下には行事時の写真を掲示していた。ソファの方向をいろいろに変えて配置しており、日中はそれぞれがお気に入りのソファに座って過ごしている。居間に小さい敷き布団を敷いており、横になりたい方が使用している。昼食後に、食堂をほうきで掃いてくれる利用者があり、管理者は「ありがとうございます」とお礼を言っていた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室は個室なのでいつでも1人になれたり仲の良い利用者同士で話せるように支援している。フロアの座席には対立している物同士が、隣にならないように支援している</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人が持ってきた物を飾ったり、家族が持ってきた家族写真を飾ったりしている。オムツの入っている箱にはカバーを掛けて分かりにくくしている</p> <p>(外部評価) ベッド・タンスは備え付けであるが、ご自宅の習慣を継続して床に布団を敷いて利用する方もある。ポータブルトイレやおむつ等は目に触れにくいようにカバーを掛けていた。ご家族やお好きな動物の写真、手作り作品を飾ったり、中には100歳の表彰状を飾っているところもあった。お好きな読書をして過ごす方もある。ご家族が、掲示した写真それぞれにその方の名前や自宅等とコメントを付けて利用者がわかりやすいようにしていた。ご家族と旅行に出かける利用者は、旅行先ごとのアルバムを置いて時々見て楽しんでいる。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 危険な物を目に届かない所に置き安全を確保しなるべく自分の事は自分でしてもらうようにしている。利用者で対応方法に変化がでた時はスタッフ会及び日々の業務で話し合い統一している</p>	